

令和 2 年度
横浜市立高等学校
及び
併設型中学校
学校関係者評価書

対象校：横浜市立横浜総合高等学校

調査全体の日程

調査日：令和3年3月22日

調査対象校：横浜市立横浜総合高等学校

調査チーム：学校評議員 委員長 大津 幸雄（南区社会福祉協議会会長）

委員 高木 俊彦（横浜市南中学校長）

委員 中田 康彦（一橋大学大学院社会学研究科教授）

委員 中村 亜実（横浜市立横浜総合高等学校 PTA 会長）

記録等担当者：副校長 高橋 司

1 第3期横浜市教育振興基本計画の推進状況

□魅力ある高校教育の推進状況について

- ・中学校向けに不登校研修会を実施して、高校から中学校へ働きかけをしていることはとてもよいことである。
- ・中学3年生の時、進路先を横浜総合高校に決定する際、中学校からの情報が少なく、自ら進学説明会に出向いたり、保護者同士のネットワークを使って自分の足で稼いで情報を集めて学校にたどり着いた。そのため、中学校に横浜総合高校の特徴をもっとアピールできるようにしてほしい。中学校に定時制高校、単位制高校、総合学科高校という選択肢があるということをはっきりと提示できるようにしてほしい。
- ・「ようこそカフェ」は先生でも生徒でない外部の方と話ができる機会としてとても有意義であるが、学校に登校しないと参加できない。そもそも学校に登校できない不登校者に対する授業のフォローや気持ちのフォローがもっと行えるようになるとよい。

2 教育活動の状況

□教科指導の状況について

- ・オンライン授業については生徒側のインフラの整備が大きな課題となってくる。学校に登校し、教室で授業を受ける以上に、自宅学習は忍耐力や集中力を強いることになる。生徒が主体的に取り組むことができるかどうかで評価が分かれるため、それを上手に行っていくことが大切である。
- ・横浜市よりオンライン授業に向けて貸し出し用パソコンが84台配当されることになり、ようやく準備が整ったとのことなので、今後その有効な活用方法を検討してほしい。

□進路指導の状況について

- ・卒業後の進路にあたっての金銭的成本についてガイダンスを行っており、生徒だけでなく保護者も参加していることはとても大切である。

□保健指導及び環境美化の状況について

- ・新型コロナウイルス感染防止対策を徹底した。また、ゴミ箱の撤去を行ったことで、生徒にごみを持ち帰る習慣が身につき、長年の懸案が解消されることになっている。

3 学校経営の状況

□保護者・地域との連携協力の状況について

- ・新型コロナウイルスの影響で従来より地域とのかかわりが疎遠になるなか、町の清掃活動等に生徒が参加してくれた。それでも思い通りの活動ができなかったのも、コロナ禍でもできることを地域としても模索していきたい。
- ・地域から与えられた課題を解決するだけでなく、ワンランクアップして学校から課題を提起できるようにしてほしい。

□学校に関する情報公開の状況について

- ・コクーを使った情報伝達システムは、保護者と双方向で情報のやり取りができる媒体として強気に機能している。アンケート等も紙媒体を使った従来よりも回収率が格段に上がっており、保護者の反応も良くなっている。
- ・生徒が学校からのプリントを自宅持って帰らなかつたり、持って帰っても保護者に渡さなかつたりすることが多い。その意味ではコクーによるアンケートは保護者に確実にダイレクトに届き、届いたら返答することができるという面では大変好評であった。
- ・アンケートについては保護者がすぐに返答できるよう、設問はできるだけ短いほうがよい。そうすればもっと回収率も上がると思う。
- ・学校からのお知らせを頻繁に行ってもらいたい。そのことから考えるとラインやユーチューブを見るのと同じ感覚で行えるよう、コクーをもっと活用してもらいたい。

4 いじめへの対応に関する項目

□いじめへの対応について

- ・いじめに関する重大案件は発生していないようだが、引き続き学校全体で未然防止に向けて取り組んでほしい。